

編集の辞

未曾有の高齢化社会と生活習慣の欧米化に伴い、我が国においても糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満、メタボリックシンドローム、慢性腎臓病（CKD）などの生活習慣病が蔓延してきています。また、これらの疾患はいずれも、血管内皮機能障害をひきおこし動脈硬化症を進展させて心血管系事故のリスクを高めることが知られています。従って、日常臨床でこれら疾患をかかえた患者さんを診療するに際しては、心血管疾患（CVD）の発症阻止を念頭に置いたプライマリーケアの必要性が生じてくるわけです。つまり、生活習慣病診療の究極的な目的は、CVD発症のリスクを低減させ予防していくこと、患者さんに健康で若々しい生活を生涯にわたって送っていただくことになるわけです。そのためには、個々の患者のリスクをトータルに評価しマネージメントしていくことが重要となってきます。

しかしながら、多岐にわたる疾患をかかえた患者さんを実際に診療する際、いろんな疑問点が生じてくるのも事実です。① 個々の患者さんの冠危険因子をどのようにしてトータルに評価し、何を基準として治療目標を設定していったらいいのか？ ② 問診や診察上でのポイントは？ ③ 内皮機能障害や動脈硬化症の程度をどのように把握していくのか？ ④ 将来のCVDを予測できるような有望なバイオマーカーはあるのか？ ⑤ 実際にどのような戦略で治療計画を立てていったらしいのか？ ⑥ 運動や食事療法をどう実践していくのか？ ⑦ 薬剤選択の基準は？ ⑧ 参考にすべき大規模臨床試験のエビデンスはあるのか？ などなどです。

そこで本書では、これらの疑問に対して第一線でご活躍の先生方にご解説していただくことといたしました。本書は、生活習慣病の診療を行うに際して『現場』で必要な情報をすぐに入手でき、1人1人の患者さんに合った治療を行うことができるようポケット判で実用的な作りとなっています。本書が生活習慣病をかかえた患者さんのCVD予防の一助となれば幸いです。

2009年4月

山岸昌一